

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教育学部
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 完成年度である2013年度以降の教育学部再編に併せて教員組織の検討を行う。	→「将来ビジョン委員会の開催頻度」	B	B			
2. 教育学部の特徴として免許資格取得が可能となる教員組織を整備する必要があり、その点に留意して再整備を進める。	→「教育学部再編に当たっての取得できる免許資格の検討と、それに対応した教員組織の整備」	B	B			
3. 教員の採用・昇格の学部内の内規・申し合わせの点検と評価を行う。	→「内規及び申し合わせの見直し作業の進捗状況」	B	B			
4. 教員の資質の向上と授業改善を図るため、FD研究会を開催する。	→「FD活動にかかわる研修会等の開催頻度と参加者数」	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目 11.0.1	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。 (方針設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ ● 方針を定めている ○ 方針は定めていない
	(方針) 教育学部の理念・目的及び再編計画に合致した教員組織を編成する。幼児・初等教育学科においては、実践的な教育力を育てられる教員を配置し、臨床教育学科においても、教育現場で実務経験を持つ教員を配置する。
	(説明) 再編計画の検討にあたり、学部再編構想策定のなかで、新しい教員組織のあり方を検討している。
★ 小項目 11.0.2	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。 (説明) 開設時の人事計画の基づき、2011年4月に1名の教授の新規採用を行い、教員組織の整備を図った。
	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。 (説明) 2011年4月から1名の新規採用を行い、2011年4月付けでの教授昇任が1件あった。どれも規程に従って適切に行った。
小項目 11.0.4	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。 (説明) 2010年5月以降、2回の学部FD研究会を行い、授業運営のあり方や課題の検討、教育内容の共有化を行った。
	その他

《評価指標データ》

(特定指標データ) 本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【教育学部】		単位	2007	2008	2009	2010	2011	備考	
指標1	専任教員1人あたりの学生数 (ST比)	人			7.9	17.6	26.6	学部	
指標2	必修科目および選択必修科目に対する専任比率	専門教育	%			100.0	100.0	100.0	学部、センター、研究所
		教養教育	%			41.5	25.0	27.7	
指標3	教員組織における女性教員の比率	%			36.6	35.0	35.0	学部、センター、研究所	
指標4	本学出身の専任教員の構成比率	%			2.4	2.5	12.5	学部、センター、研究所	
指標5	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間			5.2	8.1	12.5	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間			3.9	8.5	11.5	
		講師	時間			0.7	6.0	—	
		助教	時間			—	—	—	

(その他の指標)

専任教員の年齢別構成【大学基礎データ】

教員一人当たりの授業時間数【大学基礎データ】

本学出身の専任教員の構成比率【基本的な指標データ】

海外の大学で学位を取得した専任教員の比率

教員組織における実務家教員の占める割合(専門職大学院に限定)

教員組織における女性教員の占める割合

任期制教員(契約教員)の採用数

公募制による採用教員の数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目	
11.0.1	
小項目	
11.0.2	
小項目	
11.0.3	
小項目	
11.0.4	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目	
11.0.1	
小項目	
11.0.2	
★小項目	
11.0.3	
小項目	
11.0.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目	
11.0.1	
小項目	
11.0.2	
★小項目	
11.0.3	
小項目	
11.0.4	
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目	
11.0.1	
小項目	
11.0.2	
★小項目	
11.0.3	
小項目	
11.0.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

- S T比が学内では相対的に低い水準にあり、また女性教員比率は高い点が特徴的です。
- 専門性、年齢構成などを考慮しながら、教員組織の検討作業にあたっていただくことが期待されます。

【学内委員】

○F Dに関する現状説明は、開催の回数、内容、参加教員数（比率）など具体的な記述がありません。簡単であっても具体性のある記述が期待されます。

- 専門教育における専任比率は優れています。また女性教員の比率も優れています。
- 要素や大学基準協会の留意すべき事項に沿った説明が求められます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

- ・50代の教員割合は30%を大きく超えており、その是正には時間がかかると思われますが注意をお願いします。
- ・F Dに関しての目標と指標を設定することが望まれます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目11.0.1

基盤評価：「採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていること」「組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていること」

達成度評価：「専門分野に関する能力、教育に対する姿勢など、大学として求める教員像を明らかにしたうえで、当該大学、学部・研究科の理念・目的を実現するために、教員組織の編制方針を定めている」

○小項目11.0.2

基盤評価：「当該大学・学部・研究科の専任教員数が、法令（大学設置基準等）によって定められた必要数を満たしていること」「特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していること」

達成度評価：「教員組織の編制方針に従う教員組織を編成している」（小項目11.0.2&11.0.3）

（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・方針と教員組織編制実態の整合性
- ・十分な教育活動を展開するための取り組み（例えば、授業科目と担当教員の適合性を判断する措置の導入や、専任教員1人あたり学生数に対する配慮などが考えられる。）
- ・教員の募集・採用・昇格について、基準、手続を明文化するなど、その適切性・透明性を担保するための取り組み

○小項目11.0.4

基盤評価：なし

達成度評価：「教育研究、その他の諸活動（※）に関する教員の資質向上を図るための研修等を行い、教員・教員組織の質の維持・向上を恒常的かつ適切に行っている。」※ここでいう諸活動とは、社会貢献、管理業務などを含む教員に求められる様々な活動を言う。授業方法の改善等、教育内容・方法の向上を意図した取り組みについては、4（本学では6）教育内容・方法・成果において問う

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

《現状の説明》11.0.2に下記のように追記。

専任教員数については、教員養成を主たる目的とする幼児・初等教育学科が大学設置基準によって定められた必要人数の2.5倍であり、臨床教育学科も十分に基準を満たしている。また、両学科とも開設している免許・資格においても、教職課程認定基準等によって定められた必要人数を十分に満たしているが、教員養成・保育士の養成においては、決め細やかな教育が求められているため、今後とも現在の水準を低下させないように努める。

★

《現状の説明》11.0.4に下記のように追記。

学部F D研究会は2010年7月7日と12月1日に開催した。初回は学部の教育研究条件に関する自由討議をおこなし、2回目は学部教員の研究活動の概要についての報告を行い、次に発表者の担当している授業のミニ授業を行なって、授業のあり方について討議した。ともに30名以上の教員が参加した。（参加率：1回目約87%・2回目約79%）